



熊本における俘虜将校の宿舎・物産館集議所洋館(旧ジェーンズ邸)(大正3年11月~大正4年6月頃撮影)



久留米の国分村収容所における俘虜将校のテニス大会のスナップ(大正6年春撮影)

第一次世界大戦開戦から110周年の今、よみがえるドイツ人俘虜たちの生活!初公開の写真資料219点を一挙掲載!

熊本・久留米俘虜収容所 [1914-1920]の風景

—あるドイツ将校の写真帖でたどる

久留米大学文学部教授 **大庭卓也**・久留米市文化財保護課主査 **小澤太郎** 編

令和6年(2024)3月刊・B5判・140頁・定価2,200円(税込)

第一次世界大戦時、日英同盟を結んでいた日本は、大正3年(1914)8月23日にドイツに宣戦布告し、ドイツの中国における拠点であった青島^{チンタオ}を同年11月上旬に陥落させ、約5000名のドイツ軍人を俘虜として日本各地の収容所へ移送した。俘虜たちはヴェルサイユ条約により本国へ送還される大正9年(1920)1月まで、はからずも日本で生活することになった。各地の収容所のうち久留米のそれは最大規模で、約1300名の俘虜を収容していたが、そのなかの一人に、エドゥアルト・ヴィル(Eduard Will:1883-?:海兵第三大隊第五中隊付の予備陸軍少尉。はじめに熊本収容所に収容され、のち久留米収容所へ収容換えとなる。久留米収容所では室内楽団を結成し、ピアニストとして活躍)があった。

本書は、ヴィルが大切に保管していた熊本と久留米の収容所で撮影された写真資料(久留米大学御井図書館所蔵)のなかから熊本収容所の写真71点、久留米収容所の写真148点を厳選のうえ、写真の観察をより深めるために17点についてはカラー化を試み、ドイツ人俘虜たちの生活の実態、日本の近代史の一断面を明らかにする。

[内容目次] はじめに/エドゥアルト・ヴィル旧蔵資料について 大庭卓也

第一章 熊本俘虜収容所写真帖/青島陥落、熊本へ/将校と従卒たちの宿舎/食事/散策・遠足・運動/収容所員/
熊本の人と風景/久留米への移動

第二章 久留米俘虜収容所写真帖/国分村の収容所/将校と下士卒の兵舎/食事/洗濯・風呂・洗面/愛玩動物/運動/運動施設の拡充/
遠足と水泳/美術と工芸/クリスマス/イースター休暇/音楽/演劇/収容所員と衛兵/久留米の人と風景

久留米俘虜収容所の食生活 小澤太郎/〈資料〉久留米俘虜収容所規則類(大正6年改正分)

(有)花書院 FAX 092-524-4411

〒810-0012 福岡市中央区白金2丁目2-9-2
TEL 092-526-0287



注文書 ◆花書院

熊本・久留米俘虜収容所 [1914-1920] の風景 —あるドイツ将校の写真帖でたどる

お名前

住所(〒 —)

お電話番号



部
注文します

※送料は実費にてご負担ください